

むさし国分寺訪問看護ステーション

富永久美恵

代表



042-332-7724

musakokuhoukan.com

東京都国分寺市西恋ヶ窪
2-25-1-101

ビジョン

当ステーションがある武蔵野台地は、小動物が木の
実を運んで森が広がっていったそうです。私達は、
その小動物たちのように、温もりあるケアを皆様に
大切にお届けします。

国分寺市・国立市・立川市を中心に訪問看護を展開する「むさし国分寺訪問看護ステーション」。その代表である富永久美恵氏は、「特化しないこと」を強みに、1歳から98歳まで幅広い利用者に対応し続けています。保険診療だけでは支えきれないニーズに対しては、自費・保険外サービスを柔軟に取り入れ、「制度の壁を超えた支援」を実践。地域に密着しながら、利用者一人ひとりの生活に寄り添う姿勢は、多くの信頼を集めています。本記事では、前回取材からの1年のあゆみ、サービスの特长、そして訪問看護の未来への展望について詳しく伺いました(2026年3月取材)。

「特化しない」地域密着型サービスの強み

この1年を振り返ってみて、スタッフ体制にどのような変化がありましたか？

この1年は、一言で言うと「安定」の年でしたね。現在は事務スタッフ2名、看護師9名の計11名体制で運営しています。かつては離職者が続く時期もありましたが、この1年はスタッフが定着し、さらに日数を増やして貢献してくれるメンバーも出てくるなど、非常に良い循環が生まれています。

スタッフが定着し、安定した組織へと変わった要因は何だと分析されていますか？

以前はスタッフの入れ替わりもありましたが、結果的に「このステーションの想いに合う・合わない」のフィルターがうまく機能するようになったのだと感じています。現在残っているのは、私たちのビジョンに心から共感し、自律的に動けるメンバーばかりです。

最近のトピックとして象徴的なのは、私が現場を不在にしても、スタッフたちが責任を持って看護を完遂してくれるようになったことです。以前のような「後ろ向きな言葉」が消え、心理的安全性が非常に高い、プロフェッショナルなチームへと成長しました。私が全ての中心となって指示を出すのではなく、スタッフ一人ひとりが自分で考え、行動できる組織になったことは、この1年での最大の収穫です。



採用についても、強化している最中なのですね。

今も募集は継続しており、4月、5月にも新しい仲間が増える予定です。ただ、現在は信頼できる人材紹介会社を通じて入職していただくケースが多いのですが、正直に言えば、今後は「自社での直接採用」をもっと目指していきたいと考えています。

紹介会社を通さない「自社採用」にこだわるのは、なぜでしょうか？

一番の理由は、紹介料の負担です。一般的に、常勤の看護師一人を採用するのに年収の約30%、金額にして100万円以上のお金が紹介会社へ流れてしまいます。これは多くの訪問看護ステーションが直面している課題です。本当はそうしたコストをかけず、自社の想いに直接惹かれて応募してくれる「フリーの看護師さん」を採用できるのが一番の理想です。紹介会社というフィルターを通さず、お互いの顔が見える形での自社採用を増やすことが、経営面でも、またステーションの結束力を高める意味でも、これからの目標ですね。



「1歳から98歳まで対応」国分寺市・国立市・立川市で広がる訪問看護

むさし国分寺訪問看護ステーションが提供する保険内サービスについて、具体的な診療科や特徴を教えてください。

私たちの最大の特徴は「あえて何かに特化しないこと」です。何かに特化するのではなく、地域に暮らすあらゆる方の困りごとに対応できる体制を整えています。対象となる方は、下は1歳から上は98歳まで。疾患についても、糖尿病などの一般的な疾患から、人工呼吸器を装着した難病、統合失調症や自閉症などの精神疾患、さらには小児の重症心身障害児まで、まさにオールジャンルです。

活動エリアや、利用者様の傾向にはどのような特徴がありますか？

拠点は国分寺市にありますが、そこを中心に国立市、立川市、さらには小平市や小金井市といった多摩エリアを広くカバーしています。最も多いのは国分寺市の利用者様ですが、エリアを限定しすぎず、相談があればフットワーク軽く伺うのが私たちのスタイルです。小児から高齢者までをひとつのステーションで診るため、スタッフ間で情報を共有しながら、小児科が得意なスタッフの知識を高齢者のケアに活かしたり、その逆を行ったりと、チーム全体で看護の知見を広げています…



続きはQRコードからアクセスしてください → → →

